

林業B

〔例題1〕 空中写真による森林調査に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 空中写真は、撮影する飛行体によって種類があり、人工衛星を用いるものを航空写真、飛行機から撮影するものを衛星画像という。
2. 航空写真は、林野庁及び国土地理院により定期的に撮影が行われており、地域に応じて規格を変えている。
3. 隣り合った写真が重なるように設定することをオルソフォトといい、重複した2枚の組写真を利用すると、写真を立体的に見ることができる。
4. 空中写真に写るのは木の樹冠部分であり、この樹冠の形や色調により樹種を識別することもできる。
5. 樹冠疎密度は、森林と無立木地の面積の割合であり、樹木の本数が多い場所や樹冠が広がっている場合、疎密度が低くなる。

【正答4】

林業B

〔例題2〕 森林生態系の特徴に関する次の文章の空欄ア～ウに該当する語の組合せとして妥当なのはどれか。

発達した森林では、高木層・亜高木層・低木層・草本層と、樹木の樹冠や植物の葉が高さ方向に分布している。これを森林の〔ア〕構造といい、高木層が太陽光のエネルギーの大半を消費する一方、下層では林冠・樹冠からもれる光環境のもとで生育できる〔イ〕をもつ種が生育することで、〔ア〕構造が形成される。

また、水平的な広がりをみた場合、溪流や河川と接する境界である溪畔林や河畔林など異なる生態系が接する移行帯を〔ウ〕といい、生物多様性の面からも重要な場とされている。

	ア	イ	ウ
1. 階層		耐陰性	ニッチ
2. 階層		耐陰性	エコトーン
3. 階層		耐陽性	エコトーン
4. 水平		耐陰性	エコトーン
5. 水平		耐陽性	ニッチ

【正答2】

林業B

〔例題3〕 平板測量に関するア～ウの記述の正誤の組合せとして妥当なのはどれか。

- ア. 平板上の測線方向と地上の測線方向とを一致させることを致心という。
- イ. 平板測量では、細部測量だけでなく、測量の要求している精度、現地の地形の状況により骨組測量も行う。平板測量の骨組測量として、最もよく使われる方法が放射法である。
- ウ. 三斜法は、平面上をいくつかの三角形に区分し、それぞれの三角形の面積を求めて総計し、全体の面積を求める方法である。

	ア	イ	ウ
1.	正	正	正
2.	正	誤	誤
3.	誤	正	正
4.	誤	誤	正
5.	誤	誤	誤

【正答4】

林業B

〔例題4〕 循環資源としての木材に関する次の文章の空欄ア～ウに該当する語の組合せとして妥当なのはどれか。

木材は、そのままの形で再利用したほうが環境への負荷が〔ア〕なるが、リユースやリサイクルが困難な廃材は、焼却処理などにより発生する熱で蒸気を生産し、発電や熱利用を行う〔イ〕を心がけると、木材製品製造時に投入されたエネルギーの回収も可能となる。その結果、林地で生産された樹木を余すことなく利用する〔ウ〕が可能となる。

ア	イ	ウ
1. 小さく	カーボンニュートラル	カスケード利用
2. 小さく	カーボンニュートラル	ライフサイクルアセスメント
3. 小さく	サーマルリサイクル	カスケード利用
4. 大きく	サーマルリサイクル	ライフサイクルアセスメント
5. 大きく	カーボンニュートラル	カスケード利用

【正答3】